

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	いこまめぐ〜るプロジェクト事業
資金分配団体名:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	一般社団法人無限
実施時期:	2021年6月〜2022年2月
事業対象地域:	奈良県生駒市
事業対象者:	生駒市の子どもや大人

Version 3.2
日付: 20xx年xx月xx日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>地域福祉の拠点をつくる</p> <p>①リアルな場の創造として子ども食堂が機能し、食堂や弁当販売で孤食の解消に寄与し、職業訓練と就労支援の実習の場として活用されることを目指す。</p> <p>②フードバンクを設置し、地域の物質的な寄付の受け皿と文化醸成の拠点になることを目指す。</p> <p>③寄付システムの構築として寄付付き商品と寄付チケットを普及し、地域の寄付文化が醸成されることを目指す。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>これまでの既存の子どもの居場所では「僕は困っていない」と、居場所が必要な子どもに限って参加できないということが起こっていた。困っているか、困っていないかを運営側が判断するのではなく「どんな子どもでも来れる場所」を設置し、さらに「子どもたちが行きたくなる場所」を作ることを目指した。まほう・ガチャガチャ・チロル、こうした言葉や行動設定をすることで目指していたその目的を実現することができた。</p> <p>また、子どもの居場所を支えるのは一部の行政や団体が行うものと、思っている地域の大人たちに対して、地域の子どもの成長を地域の大人たちが支える仕組みの実現を目指した。「新しい寄付のカルチャー」がその一つだ。寄付をする＝チロル という動詞をつくり、寄付のハードルを下げた。また、寄付付きの商品を設置して、飲食していただいたり、購入してもらうことで「安いから買う」「美味しいから買う」と同じように「寄付が付いているから買う」という新しい購買動機を作った。また、夜の居酒屋では街の人に店主になってもらい、大人の場づくりにも取り組んだ。お酒を飲みながら地域のことや子どもたちのことなども話しやすい場所を生み出すことができた。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	居場所の不足	地域の福祉拠点がつくられる	拠点の有無	福祉拠点が設置される	福祉拠点が設置された	短期間の間にプランニング、デザイン、改装、オペレーションの設置まで完成させることができた
子ども・学生	居場所の不足	子どもの孤食解消される	たわわ食堂開催回数 利用者数のカウント チロルカレーの提供数	30回のべ7,900人 のべ2,300人	たわわ38回開催のべ9,481人 チロルカレー提供数=別シート添付資料①	たわわ食堂さんも毎週水曜と第4日曜日に順調に食堂を運営されている。 利用者カウント添付資料②
求職者	就業困難	職業訓練及び就労移行支援の実習の場として活用される	チロル堂に関連する弁当製造やカレー製造に携わった人数	のべ280人	弁当製造事業5名（週5日）224名 カレー製造2名（週2日）40名	就労支援事業所Growinにてチロル堂のお弁当製造や、チロルカレーの製造で工賃を算出することができた
子ども・学生	事業実施上の困難	寄付付き商品（弁当、メニュー）が購入される	寄付付き商品の売り上げ数	のべ5,600人	477,000円（寄付付き商品の寄付総額） ～12月まで	弁当、カレー、コーヒー等に付帯している寄付金額と現金での寄付額の合計が12月までで477,000円を達成することができた
生活困窮者	食料関連の不足	フードバンク機能が支援の場実に実装される	食品の寄付の数	のべ700人	カウントができていない	12月頃から特にお菓子屋野菜、お米等の食品の寄付が全国各地から送られてきた。それらは商品として販売したり、無料で配布したり、たわわ食堂で調理して提供したりした。
生活困窮者	食料関連の不足	フードバンクへの寄付文化の醸成と地域に対して意識づけがされる	食品の寄付の数	のべ700人	カウントができていない	頂いた食料品等はSNS等で発信し、情報を開示してきたが、今からはきっちりとリスト化していく。将来的にはアプリに入力して、さらに情報を広く開示していく
子ども・学生	事業実施上の困難	賛助会員として地域住民が登録する	登録者数	40人 2.70万円	現在会員登録に向けて準備中	500円～5000円の毎月定額の寄付を募るための準備をしている。200名程度の人数を目標にしている
子ども・学生	居場所の不足	寄付チケットが普及し、寄付文化が醸成される	寄付の件数・金額	2.14万円	477,000円（寄付付き商品の寄付総額）～12月まで	弁当、カレー、コーヒー等に付帯している寄付金額と現金での寄付額の合計が12月までで477,000円を達成することができた

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>地域福祉の拠点をつくる①リアルな場の創造として子ども食堂が機能し、食堂や弁当販売で孤食の解消に寄与し、職業訓練と就労支援の実習の場として活用されることを目指す。②フードバンクを設置し、地域の物質的な寄付の受け皿と文化醸成の拠点になることを目指す。③寄付システムの構築として寄付付き商品と寄付チケットを普及し、地域の寄付文化が醸成されることを目指す。</p>
考察等	<p>「寄付チケット」ではなく子どもだけが使える「チロル札」を設定したり、寄付をするということを「チロル」と言い換えたり、ちょっとした表現方法を変えることで活動に興味を持ってくれる人たちの温度感が変わり、参加者が増えたと感じる。また「生活困窮者を救済する」「困っている子どもを助ける」という最初の目的を徹底的に表現しないことで、結果的にその子達にも目的が届けられたと感じる。一人でカレーを食べて帰る子もいるし、学校に行っていないので、と母娘で来られる方もいる。ご飯が食べれないと、いつも食事を受け取りに来る人もいる。「こども食堂」とも言わず「魔法の駄菓子屋」の看板だからこそ届けられた支援が生まれたと感じる。また、地域の子どものたちがチロル堂のことが大好きになり、たくさんの子どものたちの居場所として強烈に機能したことで「この子どもたちが大好きな場所を継続していくには寄付が必要です。」というメッセージの意味が増してくる。子どもたちにとって大事な居場所を地域の大人が支えていくしくみづくりがこれから加速していくことになる。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
子ども食堂メニュー開発、弁当（塾弁）開発	ほぼ計画通り	販売する弁当・カレー・ポテトフライ・パン等々のメニューを決定した
寄付付き商品開発	ほぼ計画通り	チロル堂で販売する商品（大人向け）には全てチロル（寄付）をつけた商品にしている
めぐ〜るシステム（寄付システム）設計	ほぼ計画通り	寄付付きの商品の販売・チロル堂以外の店舗でのチロル（寄付）の扱い・寄付の可視化アプリ等々の設計をした
めぐ〜るシステム（寄付システム）広報物作成	遅延あり	寄付の仕組みのみを表現した広報物は作成できていない（SNS等での案内はしている）
就労実習受入体制構築	ほぼ計画通り	社会経験の乏しい人材を育成できるスタッフを雇用する等の準備をした
拠点プレオープン・メニュー検証	ほぼ計画通り	8月初旬のプレオープンを予定していたが、8月18日がプレオープンとなった
拠点オープン	ほぼ計画通り	8月初旬のプレオープンを予定していたが、8月20日がオープン日となった
子ども食堂ウィーク開催（夏休み期間）	中止	コロナの感染が少し気になる時期でもあり、オープンが遅くなったこともあり、通常運転に切り替えた
めぐ〜るシステム（寄付システム）広報期間	遅延あり	地域に向けて広報はしていないが、直接ラッキーガーデンさんから協力意向の連絡があり、資料等を作成した
就労実習広報	中止	口コミや身近なところに対象者おり、その人たちの採用が決定したため、特別広報は必要なかった
フードバンク寄付受入	中止	機能があれこれあるとよく分からなくなるし、場所が計画より狭く、フードバンク、という形での構築はしなかった。
寄付付き商品販売開始	ほぼ計画通り	弁当・カレー・ポテトフライ・パン・販売を開始した。のちに手入れ珈琲、ツキノワカレーも設置した。
フードバンク開始	中止	フードバンクという形ではなく、現金や食べ物、全般に寄付の受け入れをスタートさせた
めぐ〜るチケット（寄付チケット）取扱店舗開拓	遅延あり	ラッキーガーデンさんにプレゼンに行ったがなかなか先方の思いと、こちらの意向が一致しなかった
子ども食堂通常運営開始	ほぼ計画通り	チロル堂の運営とは別に毎週水曜日と第4日曜日に「たわわ食堂」さんの運営が開催されている
就労実習実装開始	中止	引きこもっていた青年や、これから社会に出ていく学生さん等々をアルバイトやボランティアとして採用している
めぐ〜るシステム（寄付システム）広報期間	遅延あり	広報するには至っていないが寄付を可視化するアプリの開発や、オンライン寄付を可能にするサイトを立ち上げたりしている
フードバンク寄付広報期間	中止	フードバンクという形では活動を行っていない
寄付付き商品販売広報期間	遅延あり	寄付のサブスクの広報をするためにチラシや動画の製作を計画。イベントも行う計画を思案中

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>思っていたよりも早くに場所の知名度が広がり、地域の子どもの多くがチロル堂を知ってくれている状況。様々な広報媒体に取り上げてもらえたことがその一因だと思う。さらに地域内にとどまらず、全国各地から見学に来られたり、問い合わせがある。また全国から寄付の物品が送られてくる。同じような活動がしたい、という団体も多く、情報の共有やアドバイスを求められることも多い。また、学生さんからの問い合わせも多く、取材も数件受けた。卒論や研究の対象になったようだ。</p> <p>さらには、行政からの期待も高く、生駒駅南地区開発計画の実行にも携わることになり、まちづくりをもう少し広い視点で考えていくことになりそうだ。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>生駒市内の子どもたちにとって、行きつけの場所になることが実現している。土曜日には平日に來れない子どもたちや家族でチロル堂に行列ができています。ただ、子どもたちの居場所になったり、チロルカレーを1チロル（100円）で食べる子どもが増えれば増えるほど、運営費用は嵩むしくみのチロル堂では、運営費用の獲得が大きな課題となっている。現在寄付のサブスクのしくみを準備し、広報期間を設けてしっかりと「チロル堂を支える」人たをを増やしていく準備を始めている。2月中にチロル堂の動画撮影や「寄付のサブスク」を呼びかける広報物を作成し、3月にはイベントも予定している。「地域の子どもたちを地域の大人たちが支える」しくみづくりの骨格ができる予定だ。また、「チロル堂メソッド」の構築し、地域内外へ活動を広げていくことも視野に入れている。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
一般社団法人和草	チロル堂で毎週水曜日と第4日曜日に「地域食堂」を開催。通常のチロル堂とは違う利用者の需要を担ってくれている。ボランティアさんも活躍。
アトリエf.t.生駒	チロル堂の場のデザインやしきみづくりのデザインやディレクションを担当。また広報も幅広く担ってくれている。
合同会社オフィスキャンブ	チラシのデザイン、ロゴ、アプリのデザイン。HPの監修等々を担ってくれている

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	15,000,000	15,008,395	100.1%
	管理的経費	500,000	500,000	100.0%
合計		15,500,000	15,508,395	100.1%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	NHK奈良放送「タどき」・読売テレビ「かんさい情報ネットten.」関西テレビ「報道ランナー」新聞各紙（読売・産経・朝日・奈良新聞）ソーシャルメディア「Greenz」その他・・・詳細を書く 記事を貼り付ける カレーの提供等の情報（協賛）
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	オープニングチラシ・500枚・オープニング広報 / お弁当メニュー表・500枚・お弁当注文獲得の為 / 毎月の日替わり弁当献立表 / 毎月100枚・お弁当注文獲得の為 / カレースタートチラシ・500枚・新メニューの広報 https://fp5nt.hp.peraichi.com(仮のHP・現在本格的なHPを製作中だが、イベントに間に合わないで仮のHPを製作)
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	https://fp5nt.hp.peraichi.com HPに表現予定
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	<input type="checkbox"/> いいえ	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	<input type="checkbox"/> いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	

XII. その他

自由記述
